

農作物技術情報 第8号 畑作物

発行日 令和8年10月29日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大豆 収穫時期を迎えています。汚損粒発生防止のため、事前に青立ち株や大型雑草を抜き取り、子実水分・茎水分の低下を確認のうえ、速やかに収穫を行いましょう。
- ◆ 小麦 は種後に除草剤を散布していないほ場では、小麦の生育や雑草の発生状況、草種に応じた土壌処理剤を選択し、必ず除草剤を散布しましょう。また、ほ場が乾いた条件では積極的に麦踏みを行い、凍上害や倒伏防止に努めましょう。

1 大豆

10月上旬からの冷え込みにより葉の黄化・落葉が進み、成熟期は概ね平年並み（生育診断ほ・北上本年：10/16 平年：10/15）となりました。現在、収穫時期を迎え、順調に落葉・成熟が進んでいますが、一部では、落葉しない青立ち株が見られます。青立ち株は茎水分が低下しないため、汚損粒の原因となります。汚損粒を発生させないよう、青立ち株の撤去や茎水分の低下を確認するなど、的確な収穫期の判断が必要です。

(1) 収穫前の抜き取り

青立ち株や大型雑草などは収穫前までにはほ場から撤去してください。青立ち株や大型雑草等は汚損粒の原因となるだけでなく、コンバインのカッター等で切断されず、リール周辺で豆に接触して裂莢を増加させることがあります。また、オペレーター等が刈取りに集中できず、大幅に作業効率が低下します。

(2) 適期収穫

収穫適期（茎水分 50%以下、子実水分 18%以下：分枝が手でポキポキと折れる時期が目安）に達した大豆は速やかに収穫してください。晴天等が続くと裂莢が急激に進むほか、子実水分が低下しすぎると乾燥調製時などに豆が割れやすくなります。また、収穫が遅れると紫斑粒やしわ粒、腐敗粒の発生が増加します。収穫作業のポイント等は「農作物技術情報第7号畑作物」（令和8年9月24日発行）をご覧ください。

2 小麦

9月下旬から10月中旬は好天の日が多く、土壌の乾燥が進みました。このため、適期には種できたほ場が多く、出芽、初期生育は良好です。

既に、は種適期を過ぎていますので、これからは種を行う場合は年内にできるだけ茎数を確保するため、は種晩限から1週間遅れるごとに、は種量を10%増やしてください。

(1) 雑草防除

小麦栽培において難防除雑草とされているイタリアンライグラスなどの越年生のイネ科雑草は、発生後には除草する手段がありません。土壌処理剤を適切に使用し、発生させないことが重要です。

小麦4葉期まで使用可能な土壌処理剤もあります。は種後に土壌処理剤を散布していないほ場では、除草剤の登録内容を確認し、土壌処理剤を必ず散布してください。

(2) 麦踏み

表1にあるように、麦踏みは茎数の増加や倒伏防止などに大きな効果があります。近年雪が少な

い年が続いていますが、積雪が少なく土壌の凍結が強い地帯や、土壌が軽い火山灰土などでは、麦踏みは特に有効です。**積極的に実施してください。**

ただし、ほ場が乾いていることが実施の条件となりますので、排水不良のほ場や**土壌水分が高い場合**、あるいは**碎土率が極端に低い場合は実施しません。**

※麦踏みの実施方法・実施時期

- ・鎮圧ローラーやタイヤなどを用います。
- ・実施時期は、小麦4葉期～雪解け後の茎立ち前（概ね4月上旬）まで。
- ・回数は、越冬前・越冬後それぞれ1回以上を目標にします。暖冬年やは種が早い場合は回数を増やします。

表1 麦踏みの主な効果

効 果	内 容 等
茎数の増加	主稈や早期分げつを一時的に抑制する芯止めの効果などによる。
倒伏の防止	節間伸長の抑制や草丈の短縮、稈基部の重量増大によるもの。
凍上害の防止	霜柱の発生による根の浮き上がり等による枯れ上りを防ぐ。
耐寒性と耐干性の強化	麦踏みにより葉が傷つけられ、それ以降細胞溶液の濃度が高まる。
生育の均一化	主稈や早期分げつの生育が抑制される反面、弱小分げつの生育が促進され、全体として生育がそろふ。

(3) 雪腐病類の防除

雪腐病類は、本県では通常、紅色雪腐病（写真1）、雪腐褐色小粒菌核病（写真2）が発生し、県北部や高標高地など根雪期間が長い地帯では、雪腐黒色小粒菌核病（写真3）が発生します。

県北部や高標高地帯など、**根雪期間が長い地域では薬剤防除を行います。**

雪腐病は品種の耐雪性の強弱によって被害の出やすさが異なり、「ナンプキラリ」や「銀河のちから」は大きな被害になりやすいので、**注意が必要です。**

雪腐病は連作ほ場ほど発生が多い傾向が見られます。このため、融雪剤散布や追肥の実施などの融雪時の基本的な対策に加え、常発地では輪作の導入を検討してください。



写真1 紅色雪腐病
遠望するとほ場が淡紅色に見える。菌核は作らない



写真2 雪腐褐色小粒菌核病



写真3 雪腐黒色小粒菌核病

(4) 排水路の点検

額縁明きょは適切に排水路に接続しないと、逆に滞水の原因となります（写真4）。明きょや排水路の点検整備を行って、滞水による湿害等を防いでください。



写真4 明きょがしっかり施工されず滞水した様子

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら．．．
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。